

## チューリップの花芽分化状況について(7月31日現在)

平成 29 年 8 月 2 日

経営普及課

(農業革新支援担当)

新潟県農業総合研究所園芸研究センターのチューリップ花芽定期観測結果から、今年の花芽分化及びノーズの伸長状況について主要3品種のデータを紹介します。

## 1 供試球根(調査品種)

農業総合研究所園芸研究センター本場(砂壤土)産球根

品種(系統)	掘取日	球周	初期乾燥	貯蔵	調査球数
プレルジューム(T)	6月15日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵	5球
イルデフランス(SL)	6月15日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵	5球
メリーウィドー(T)	6月15日	11cm	自然乾燥	自然貯蔵	5球

## 2 花芽分化の状況

- (1) 本年の花芽分化は、いずれの品種も平年に比べて10日以上遅れている。
- (2) プレルジュームは外雄ずい分化期(A1)～雌ずい分化始期(G1)、イルデフランスは外花被分化期(P1)～柱頭分化期(G2)で、平均すると平年比で2週間程度の遅れであるが、調査個体間のばらつきが大きい。メリーウィドーは分化始期(II)～外花被分化期(P1)で、平年に比べて3週間程度遅れている。
- (3) ノーズの伸長もいずれの品種とも緩慢で、平年に比べて2～3週間程度遅れている。
- (4) りん片含水率(7月10日定期調査)は、品種によりばらつきがあるが、3品種の平均では58.5%と平年値(55.7%)に比べて高く、過去9年では2番目に高い。

## 3 花芽分化のタイプ予測

- (1) 新潟地方气象台(新潟市中央区)における本年6月の平均気温は19.0℃で、1970年以降最も低く、平年(20.7℃)よりかなり低かった。一方、7月の平均気温は25.8℃で、平年(24.5℃)よりかなり高かった。
- (2) 6、7月の平均気温を花芽分化予測図(図)に当てはめると、今年は「遅延型」と推測される。

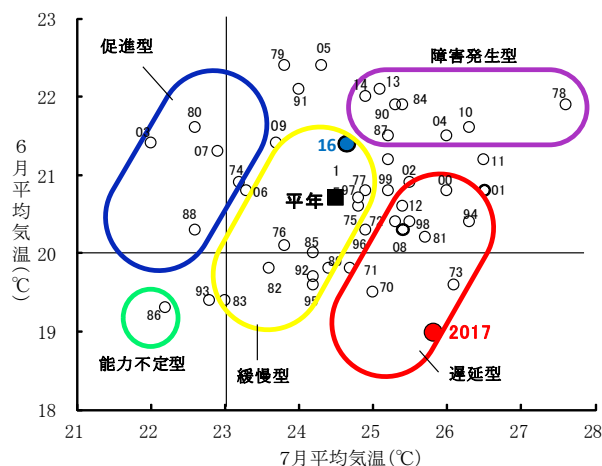


図 気温と花芽分化・発達との関係(予測図、1997改定)

## 4 今後の技術対応等

- (1) 冷蔵計画の策定に当たっては、必ず花芽を確認し、無理の無い計画とする。
- (2) 本年は平年に比べて花芽分化が遅れているため、冷蔵開始予定が8月上旬以降の球根についても計画的に中温処理を行うことが望ましい。その際、エチレングスによる障害を防止するため、腐敗球の除去を徹底し、十分な換気に留意する。

## 5 具体的データ

添付ファイル「T170731data(花芽)」参照

※ 次回の生育情報は、8月5日調査の第6報をお知らせする予定です。